

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371501038
法人名	旭日産業株式会社
事業所名	グループホーム あさひ名東
訪問調査日	平成20年7月29日
評価確定日	平成20年8月26日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2371501038
法人名	旭日産業株式会社
事業所名	グループホーム あさひ名東
所在地	名古屋市名東区勢子坊2-413 (電話) 052-704-5438

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年7月29日	評価確定日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年7月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	26 人	常勤 11人, 非常勤 15人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(150,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	71 歳	最高	98 歳
協力医療機関名	医療法人 木村病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり、2階建てで落ち着いた色彩の建物である。玄関周りには季節の花が並んでおり、庭には畑や池がある。畑は入居者が手入れをし季節の野菜を育てている。収穫を楽しみにされ、食卓に出される。1年の行事が計画され、春と秋には、家族も参加の1泊旅行を実施している。お風呂にはリフト浴が導入され、車いすの入居者も安心して入浴することができる。できるだけ、認知症が進まないよう回想法を取り入れたり、地域のボランティアの受け入れを行い、開かれたホームを目指している。また、実習生の受け入れもやっている。地域の行事にも積極的に参加し交流を図っている。夜8時から音楽をかけ就寝前の気持ちの安心に効果を上げている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、カンファレンスで改善に向けた話し合いがされた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてはマニュアルがあるので基本に沿って、ありのまま自分が思っていることを書くようにと施設長が職員に手渡した。職員は見直しする機会が設けられ、よき絆ができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2カ月に1回開催している。運営推進会議のメンバーは町内会長、協力病院院長(内科、外科)家族、地域包括支援センター職員となっており、町内会長が中心となり意見交換が行われている。会議録は家族に送付される。また、職員にも回覧される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームに意見箱を設置しているが、家族は来訪時に直接職員に話しをしている。職員は内容を確認し施設長に報告がされる。施設長は面会時、個別に対応し結果は職員会議で報告している。苦情相談機関として、ホームの担当者以外にも市町村およびあいち福祉オンブズマンの連絡先が重要事項説明書に明記されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、地域の清掃や餅つき大会、運動会に参加した。町内会の回覧板を活用しホームの施設紹介や行事への参加を呼びかけ、ホームは保育園の散歩コースに入っており、園児が立ち寄ることもある。また、毎日散歩に出かけ近隣の方と挨拶や会話をし交流をしている。散歩の途中に野菜や花の苗を頂くこともある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あさひとは、「自分らしい自然体の生活を営むように支援すること」あさひでは、「家庭的な雰囲気の中での生活において、普通の生活習慣に合わせた援助すること」を理念としている。地域の町内会より、地域の交流の仕方などさまざまなアドバイスを受けている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念は掲示されている。月1回の会議で職員全員に周知を図り、事例をあげ実践に向けた取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の清掃や餅つき大会、運動会に参加した。町内会の回覧板を活用しホームの施設紹介や行事への参加を呼びかけ、ホームは保育園の散歩コースに入っており、園児が立ち寄ることもある。また、毎日散歩に出かけ近隣の方と挨拶や会話をし交流をしている。散歩の途中に野菜や花の苗を頂くこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については、カンファレンスで改善に向けた話し合いがされた。自己評価についてはマニュアルがあるので基本に沿って、ありのまま自分が思っていることを書くようにと施設長が職員に手渡した。職員は見直しする機会が設けられ、よき絆ができた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回開催している。運営推進会議のメンバーは町内会長、協力病院院長（内科、歯科）家族、地域包括支援センター職員となっており、町内会長が中心となり意見交換が行われている。会議録は家族に送付される。また、職員にも回覧される。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの職員と交流があり、ホームの見学や会議に出席してもらい、相談や情報提供を行っている。また、職員の勉強会の講師にもなっている。</p>		<p>地域包括支援センターとは交流、連携が図られていることから、今後は行政との協働関係についても積極的に取り組まれていくことを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3カ月に1回ホーム便り「あさひ名東」を発行し家族へ送付される。家族の訪問は多く、面会時に入居者の状況を説明している。個別面談も行われ家族とのコミュニケーションを図っている。入居者の変化があった場合などは、電話、FAXなどで随時連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームに意見箱を設置しているが、家族は来訪時に直接職員に話しをしている。職員は内容を確認し施設長に報告がされる。施設長は面会時、個別に対応し結果は職員会議で報告している。苦情相談機関として、ホームの担当者以外にも市町村およびあいち福祉オンブズマンの連絡先が重要事項説明書に明記されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率もよく法人内の異動も少ない。施設長は常に職員に気を配り、職員個々から意見を出しやすい環境づくりに努めている。職員の個人面談も行っている。職員からは「施設長は話をよく聞いてくれる」との声も聞かれた。やむを得ず異動があった場合は早急に職員を配置し、極力入居者のダメージを少なくするよう配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームより外部研修の情報は提供され希望者は参加している。参加した職員は資料をホームへ持ち帰り会議で報告している。毎月の全体会議の後にケアカンファレンスを行い、勉強会も兼ねて実施している。新人研修においては、業務ツールを作成し、施設長、先輩職員、新人職員本人も進捗状況を把握できるよう図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会の幹事をしていることから、協議会の勉強会、名古屋市介護サービス事業者連絡会（名介研）などの会合には積極的に参加し交流に努めている。法人内では、お互いにホームを視察を受け、ホームのあり方について意見交換がされている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーや入居前に利用していたサービス事業所の職員などから情報の収集を行っている。また、自宅を訪問し、多くの時間をかけて話し合い、本人の状態を正しく理解し、今までの生活歴の把握に努めている。本人に雰囲気馴染んでもらえるよう体験入居を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者はお客様ではなく、共に暮らす家族でありできることは行ってもらっている。食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、裁縫など入居者の得意なことから始め、毎日少しずつでもやれなかったことができるようになり、「ありがとう」の笑顔が見られるようになった。ホームで犬（はなこ）を飼っており、ホームの一員として大きな役割を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者とコミュニケーションを取り、言動や表情から本人の希望、意向を汲み取り、笑顔で生活が送れるよう支援している。これまでの暮らしの把握に努めており、日曜日に教会へ送迎したり、喫茶店、外食を希望される方についても個別に対応している。夜眠れない入居者がいる場合、添い寝をしたり、家族としての支援がされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は毎日のケアで実践できるように細かく目標を設定している。日々の様子、実践内容を時間帯で個別に記録し、個人の状況をデータとしてまとめている。そこから関連性やパターンをつかみ効率的な介護計画の作成に役立てている。職員は担当制をとり、週1回開催されるカンファレンスで介護計画への意見を出し合っている。家族とカンファレンスを開き、意見の取り入れや修正に応じている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々、介護計画を常に意識し、様子を把握し個別に記録をとっている。指定期間での見直しはもとより、それ以外にも何か変化が生じた場合にはカンファレンスを開き、現状に即した介護計画を作成している。新たな要望や変化が見られないような場合には、「変化が全くないことはないので改善すべき点ばかりでなく、何か良くなった点も含めて変化を感じ、見落とさない。日頃から意識を持つように。」と話し、状況の掘り起こしに努め計画の見直しにつなげている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算をとり、看護師を職員として配置しており、健康面、医療面でのケアに従事している。入院されると面会に出かけ、本人の状態を確認したり、情報収集をしている。また、退院後の転院に関する情報提供などを行なっている。教会の日曜学校の送迎、受診、理美容の同伴など家族の状況や本人の希望、能力に応じて提供している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関があり、本人、家族の同意のもと、かかりつけ医として受診を支援している。月2回往診があり、24時間対応である。特に家族の希望がある場合や専門的診断が必要な疾病を有している場合は、協力医療機関以外の受診も対応している。受診結果や服薬などを情報交換し入居者の健康管理に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に説明している。日々、重度化しないようにケア方法を考え、できることを工夫し、また、主治医に報告や相談しながら支援している。看取りに関しては医師の同意のもと本人や家族と話し合い、方針を決め対応していきたいと考えており、職員教育も進めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報保護に対する基本方針」を作成し、守秘義務については契約書や運営規定に明記されている。個人の尊厳を守り、礼儀を忘れない心遣いや言葉かけに努めている。昨年度の評価を受け、特に排泄、入浴時での言葉遣い、声のトーンなどプライバシーに配慮する対応を周知徹底した。また、個人の要望や気持ちの受け入れに居室や入浴時を利用することもある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、一人ひとりのペースを大切に、決して強制はせず入居者の希望を聞きながら対応している。朝遅く起きる方には、食事時間の変更、お酒を飲まれる方もいる。なるべく自分でできることは、自分であることを心がけ、それぞれの生活習慣に合わせた支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの力や好みを活かしながら皮むきや食材切り、配膳、後片付けなどを職員と共に行なっている。要望があればアルコール摂取も可能であり、きざみやとろみ、一口大と食事内容を個々に合わせ、なるべく自分で食べられるように支援している。医師と相談し持病のある方には食事制限せず薬にて対応している。個々の嗜好に合わせて職員と外食に出かけることもある。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>1日おきに午後の時間帯で入浴を行なっている。休みの日としている水曜日以外、希望があれば毎日でも対応している。個別性及び精神的安らぎを重視し、楽しい雰囲気を入浴できるよう努めている。1階には重度化に備えリフト浴の設備がある。拒否される方には時間をあけて声かけしたりするなど、その方の気持ちに配慮して対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、掃除、ゴミ箱作りなど入居者ができること、やりたいことを定時、または随時に行なっている。習字の得意な方に献立や行事名を書いてもらったり、庭にある畑での野菜作り、裁縫好きの方には道具をホームで管理のもと楽しんでもらっている。年間行事計画を立て、新年会、節分、ひな祭り、花見、七夕、盆踊り、敬老会、居酒屋、忘年会など季節感も取り入れながら、家族にも参加を呼びかけ実施している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>時には、「お参りに行きましょう」と声かけしながら、なるべく毎日散歩をして気分転換を図っている。入浴が休みの水曜日は、『外出の日』とし名古屋城、回想法センター、愛知牧場などへ出かけている。正月の初詣、平針の農業試験場の梅まつりなど季節感を味わえることも取り入れ、マイクロバスをレンタルして年に2回、日帰り1泊旅行に出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>フロアの入り口はボタンを押して開く仕組みのドアで、出入り自由ではない。ドアセンサーなどがあると音に頼ってしまいがちになるおで設置はしていない。近所の喫茶店、ガソリンスタンド、コンビニには家族の同意のもと入居者の顔写真を預けている。派出所へは施設長が定期的に出かけ、協力を依頼している。夕食後のホールでの音楽かけは気分の落ち着きに役立っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月消防、避難、救急の訓練を行なっている。消火、誘導、救急車連絡などの想定のもと職員が夫々の役割分担をしており、入居者の参加はない。消防署の方に講義をしてもらったこともある。来月講習を受け防火管理者が専任される。マニュアル、手順書などは整備され、消火器などの点検も年1回されている。地域の防災訓練に施設長が参加している。水、乾パンなどが備蓄されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は保健所の栄養士に作ってもらった目標量の見本をベースにして職員が作成している。食事は1日1,200kcal程度、水分量は1,000~1,500ccを目安にし、毎日摂取量を記録している。体重測定は1カ月に1回実施している。便秘になりやすい老人の特性も考慮して、ヨーグルトやバナナを取り入れたり、散歩などの運動に心がけ、下剤を使用することもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入るとL字型に廊下があり、居室が並んでいる。手摺が完備されバリアフリーの設備となっている。各フロアの壁には担当職員の顔写真が、名前付きで掲示されている。広い庭には池があり、金魚が飼われ、花木が植えられている。また、ベンチ、犬小屋、花壇、菜園があり、時には抹茶、花火を楽しみ憩いの場となっている。外出後は手洗い、うがいを励行し、トイレや洗面所ではペーパータオルを使用している。犬を飼っており、不穏になられた方にアニマルセラピー効果となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、危険物以外持込可で、使い慣れたタンスや小物入れ、テレビ、思い出の品などが持ち込まれ、壁には家族の写真などが飾られて家庭的な雰囲気づくりがされている。扉は2段階で閉まるようになっており、安全性や消音効果に配慮している。窓をこまめに開け、空気の入替え、換気をしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。